



Japan
Food
Research
Laboratories

試験報告書

第 208050263-003 号
2008年(平成20年)06月16日

依頼者 喜多薬品工業株式会社

検体 サイプレスクリア

表題 殺菌効果試験

2008年(平成20年)05月07日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0031 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

殺菌効果試験

1 依頼者

喜多薬品工業株式会社

2 検 体

サイプレスクリア

3 試験目的

検体の細菌に対する殺菌効果を試験する。

4 試験概要

検体希釈液にカンピロバクター、大腸菌(血清型O157:H7, ペロ毒素Ⅰ及びⅡ型産生株)、サルモネラ、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)又は腸炎ビブリオの菌液を接種後(以下「試験液」という。)、室温で保存し、1分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお、あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。また、培養後の生菌数測定平板を写真-1～15に示した。

なお、試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数測定結果

試験菌	対象	希 積	試験液1 ml当たりの生菌数	
			開始時*	1分後
カンピロバクター	検 体	3倍	1.9×10^6	<100
	対 照	—	1.9×10^6	5.2×10^5
大腸菌 (O157:H7)	検 体	3倍	1.4×10^5	<10
	対 照	—	1.4×10^5	1.1×10^5
サルモネラ	検 体	3倍	4.2×10^5	<10
	対 照	—	4.2×10^5	5.8×10^5
MRSA	検 体	3倍	2.6×10^5	<10
	対 照	—	2.6×10^5	2.3×10^5
腸炎ビブリオ	検 体	3倍	3.0×10^5	<10
	対 照	—	3.0×10^5	1.6×10^5

<10及び<100：検出せず

対照：精製水(MRSAは生理食塩水，腸炎ビブリオは3 %塩化ナトリウム溶液)

保存温度：室温

* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し，開始時とした。

6 試験方法

1) 試験菌

- ① *Campylobacter jejuni* subsp. *jejuni* ATCC 33560(カンピロバクター)
- ② *Escherichia coli* ATCC 43895(大腸菌，血清型O157:H7，ペロ毒素Ⅰ及びⅡ型産生株)
- ③ *Salmonella enterica* subsp. *enterica* NBRC 3313(サルモネラ)
- ④ *Staphylococcus aureus* IID 1677(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌；MRSA)
- ⑤ *Vibrio parahaemolyticus* RIMD 2210100(腸炎ビブリオ)

2) 菌数測定用培地及び培養条件

a) 試験菌①

5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2(OXOID)，平板塗抹培養法，
35 ℃±1 ℃，5日間好気培養

b) 試験菌②～④

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混積平板培養法，35 ℃±1 ℃，2日間好気培養

c) 試験菌⑤

3 %塩化ナトリウム加SCDLP寒天培地，35 ℃±1 ℃，2日間好気培養

3) 試験菌液の調製

a) 試験菌①

試験菌を5%馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2で35℃±1℃、2日間微好気培養した後、精製水に浮遊させ、菌数が約 10^8 /mlとなるように調製し、試験菌液とした。

b) 試験菌②～④

試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃±1℃、18～24時間好気培養した後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が約 10^7 /mlとなるように調製し、試験菌液とした。

c) 試験菌⑤

試験菌を3%塩化ナトリウム加普通寒天培地で35℃±1℃、18～24時間好気培養した後、3%塩化ナトリウム溶液に浮遊させ、菌数が約 10^7 /mlとなるように調製し、試験菌液とした。

4) 試験操作

精製水で調製した検体の3倍希釈液10 mlに試験菌液を0.1 ml接種し、試験液とした。室温で保存し、1分後に試験液1 mlをSCDLP培地[日本製薬株式会社](腸炎ビブリオは3%塩化ナトリウム加SCDLP培地)9 mlに添加し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお、対照として、精製水(MRSAは生理食塩水、腸炎ビブリオは3%塩化ナトリウム溶液)を用いて同様に試験し、開始時についても生菌数を測定した。